

『女も戦争を担った ～昭和の証言～』

川名紀美＝著 河出書房新社

銃後で助力に勤しむ姿 40年前の名著を復刊

本書は、新聞記者であった川名紀美^{かななきみ}が1982年に出版した名著の復刊である。著者は「ともすれば被害者として語られる女性たちが、戦時下をどのように過ごし、戦争とどうかかわったか直接ききたい」と、戦争を体験した女性たちを全国各地に訪ねた。

召集から逃げた息子ーそれは後の俳優三國連太郎ーを軍隊に差し出した母親、教員として厳しく軍国少年を育てた女性教員、お国のために戦う兵隊の役に立ちたいと国防婦人会に全てを捧げた女性、また、集団自決を特別な事情で免れた一族の女性も。葛藤を抱えた女性たちに著者は時に寄り添い、時に鋭い質問を投げかける。決して責めずに。

女性も戦争を担った当事者だった。銃後で自分の役割を得て、助力^{いそ}に勤しんでいた。

この本が世に出て40年たつ。取材に応じた人のほとんどはすでにこの世にいないだろう。著者が会って聞きだした言葉を受け止めたい。



坂本洋子 さかもと ようこ/m ネット・民法改正情報ネットワーク理事長
週刊金曜日 2023.10.20 (1445号)